

James Molloy - MIRA Newsletter #16

J I Mのみしまものがたり⑯

Where waters meet.

水が交わるところ



カナダのニューファンドランドで育った私の周りには、いつも水がありました。裏庭からは、はるかヨーロッパ大陸へと続く大西洋を見渡すことができました。毎朝力強い色彩を放ちながら昇る朝日を眺めては、水平線のかなたにいる自分の同志について想像を膨らませたものです。

夏には魚釣りや水泳、そして冬にはスケートや穴釣りが楽しめる池が自宅の前にあっただけでなく、やがては大西洋に合流する急流の川やせせらぎなどが身近にありました。夜の静けさの中から聞こえてくる、小川のさらさらと流れる音や碎け散る波の音。陽が昇ったら、川の流れの行き着く先を求めて川沿いに続く道をどこまでも歩いたこともあります。流れを追いながらようやく大西洋の端っこで行き止ると、水自身は人間がつけた川、池、海などの呼び名を知っているのかなとか、他の仲間と交わったときはどうなるのかなとか、子どもらしい好奇心で考えを巡らせたのでした。

ここ三島で生活し始めてからも、水に囲まれていることを日々実感しています。澄みきった富士山の雪どけ水が菰池、桜川、御殿川、楽寿園の小浜池や源兵衛川、宮さんの川に流れ込み、長い年月をかけて、この街を創り上げてきました。人々が生活や手工業に欠かせない水をふんだんに利用できたからです。リラックスしたくなった時、私はこれらの水路沿いを散策します。子どもの頃のように、水の流れしていく先や、交わるところを発見したくて。

私のお気に入りの水スポットをひとつ挙げるとしたら、三嶋大社でしょうか。正面の大鳥居をくぐり参道を歩くと、橋が見えてきます。橋の上から左右を見ると、東西に池があるでしょう。厳島神社側の西の池は富士山からの雪どけ水、宝物館側の東の池は箱根山からの湧き水。それらがちょうど足元にある橋の下で交わっているのです。

三島は何世紀にもわたり、旅の途中で人と人が出会う宿場町、そして三嶋大社の門前町として存在していました。そんな街を三島の水は象徴しているように思いませんか。

身边な外国人とのコミュニケーション

～「やさしい日本語」で話してみよう～

「やさしい日本語」とは、普段使っている言葉を外国人にもわかるように配慮した簡単な日本語のことです。

あなたも「やさしい日本語」で、身近な外国人と話してみませんか。

NO.
5

いざという時の「やさしい日本語」

6月18日の朝、震度6弱の地震が大阪北部を襲いました。日本では地震以外に、豪雨などの自然災害に遭うこともあります。外国からのお客様が増えるのはうれしいことですが、地震など経験したことがない人がほとんどなので、災害弱者になってしまいます。日本に住んでいる外国人も、防災について学ぶ機会は少ないのではないでしょうか。いざという時の対応を考えておく必要がありますね。

【地震が起きたら こんなふうに伝えよう】

一言ずつ区切って、ゆっくり話しましょう。
「頭の上に 気をつけてください」「逃げるとき 歩いてください」
「すぐ 火を けしてください」「エレベーターを 使わないでください」
「荷物は 少なくしてください」「逃げるところは ○○です」など